

開会式 (10:00~10:15)

9月26日(土)

あいさつ

福島県生活環境部国際課長
JICA二本松所長

関 和彦
洲崎 毅浩



オープニングセッション (10:45~11:30)

全体講師: 堀田 直揮 ((公社)青年海外協力協会企画調整課長)



◆ 講座のねらい

- ・安心して参加できる雰囲気をつくる。
- ・積極的な参加姿勢をつくる。

◆ 講座の内容

(拍手でアンケート)10分

- ・導入 拍手練習
- ・簡単なアンケート

(仲間さがし)15分

- ・お題に沿ってグループ作り

(自己紹介<キン肉マンゲーム>)20分

- ・グループのメンバーを漢字一字で表現
- ・自分に対して書いてもらった漢字から一字選ぶ
- ・なぜ、その漢字を選んだのかを紹介しながら、併せて自己紹介

(目標設定&発表)15分

- ・今回のセミナーで達成したいと考えていることを書いて、グループ内で発表

 ランチ交流会  (11:30~12:45)



県の国際交流員の3人が進行。

交流員がそれぞれ自己紹介をし、母国語等で乾杯の一声をあげ、会場の雰囲気を盛り上げました。

🍁 セッション1 🍁 (13:00~14:30)

講座 A

Think globally, Act locally! ~挑戦！みんなのまちづくり~

講座担当者: 堀田 直揮 ((公社)青年海外協力協会企画調整課長)



- ◆ 講座のねらい
 - ・グローバルな視点ということについて考えてを深めてもらう。
- ◆ 講座の内容
 - ・オリジナル教材「みんなのなまず池」実践。
まちづくり活動とディスカッション。

講座 B

「日本語」という外国語～日本人には見えない姿～

講座担当者: 井本 亮 (福島大学経済経営学類教授)



◆ 講座のねらい

- ①言語・外国語としての日本語の特徴を知ってもらう。
- ②グローバル化社会の中での日本語の方向性を考えてもらう。

◆ 講座の内容

- ①日本語はどう珍しいのか、どう難しいのか。
 - ・グループでのディスカッション。
 - ・日本語の文字、音、世界言語との比較。
- ②グローバル化と日本語
 - ・グループプレインストーミング。
 - ・グローバル化のために日本語を変えていくべきか、何をすべきか。

講座 C

“Because I am a girl”

講座担当: 菊地 恵美子、伊藤 有紀 (郡山ザベリオ学園中学校教諭)



◆ 講座のねらい

- ・女の子だからという理由で学校に行く機会を奪われ児童労働に従事している子供たちがいることに気付く。
- ・児童労働が起きてしまう背景について考え、何が必要なのか考える。

◆ 講座の内容

- ①アイスブレーキング。・世界のことで愛している。
- ②ワークショップ。・日本のあいちゃん(12歳)とシータちゃん(12歳)の一日。
・シータちゃんと弟アルンくんの一日。
- ③グループ発表(問題の背景にあるものは?)
- ④「もう一人マララたち」映像
- ⑤振り返り

講座 D

ミクロネシア滞在記～2年間のホームステイ～

講座担当者: 松井 智宏 (ふくしま青年海外協力隊の会)



◆ 講座のねらい

ミクロネシアでのホームステイの中で起きた事例について考えることを通して、自分の価値観について振り返るとともに、異なる文化に出会ったときにどう向き合うかを考え、異文化を理解するために大切なことは何かに気付く。

◆ 講座の内容

- ①アイスブレイク ・グルーピング ・グループ内での自己紹介、よいところ探し
- ②ミクロネシア国紹介
- ③これってアリ? ・エピソードを見て、それがアリかどうかを考えグループで共有する。
- ④ナシと出会ったときにどうするとよいかを話し合い、ポスターにまとめ発表する。
- ⑤異文化を理解するために大切だと思うことをワークシートに記入する。

講座 E

魚とりゲーム～地球の資源として～

講座担当者:古山 良宏、劉 芳（ふくしまユースグローバルカレッジ修了生）



◆ 講座のねらい

- ・ゲームを通じて、資源が限りあることに気付く。
- ・現代社会なかで起きている問題を考える。
- ・参加者一人一人がこれからの生活で行動するきっかけをつくる。

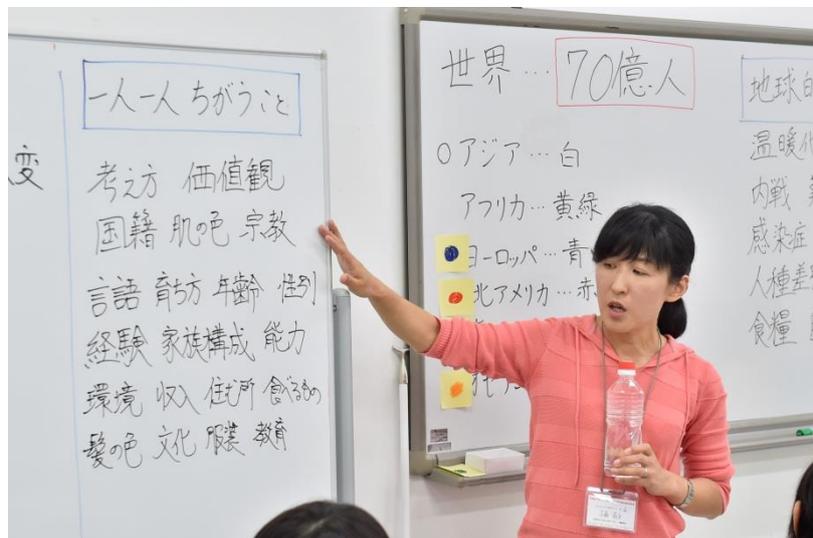
◆ 講座の内容

- ①アイスブレイキング(自己紹介)
- ②魚とりゲーム(ゲームで多くの魚をとることにより、お金に換え売上高を競う)
- ③魚の量の変化に気付き、資源減少の原因・問題を探る。
- ④対応策を考える。
- ⑤一人一人ができることを考え、実践に向けて意識づけをする。

ユース1

世界がもし100人の村だったら

講座担当者: 小熊 則子 (ふくしま青年海外協力隊の会)



◆ 講座のねらい

- ・世界の現状や格差を知り、関心を高める。
- ・私達の日常の水使用の状況と、世界の水事情についての基礎的な情報を得て、水の重要性を確認する。

◆ 講座の内容

- ①ペットボトル100本を使用し、世界の人口やその構成、経済格差などについてシミュレーションを行う。
- ②私達が日常生活で使用している水の量と、世界の水事情について知る。
- ③水を得る様々な手段と、その長所、短所をまとめる。
- ④水問題以外の地球的規模の課題について考える。
- ⑤それらの課題解決の糸口について考える。

セセッション2 (14:45~15:45)

講座 A

獅子の国「シンガポール」～アジア屈指の成長国のヒミツ～

講座担当者: 菊地 一也 (元シンガポール日本人学校クレメンティ校教諭)



◆ 講座のねらい

シンガポールの現状を理解し、日本のあり方について考えるきっかけとする。

◆ 講座の内容

「一つのシンガポール政策」「人材が資源」「積極的な自由貿易」を切り口に、シンガポールが多民族でありながら異文化を尊重し合い、発展を続ける実態について紹介した。

担当者が現地地で撮影した写真と動画を中心に、クイズ形式の活動も取り入れた。

講座 B

コロンビア～暮らしてみても学べたこと～

講座担当者: 齋藤 真里 (元青年海外協力隊隊員)



◆ 講座のねらい

コロンビアJICAボランティアについて知ってもらう。
海外で生活するということを知ってもらう。

◆ 講座の内容

- ・コロンビアの衣食住や文化の紹介
- ・日本とコロンビアの身近なつながりの紹介
- ・JICAボランティアについての説明
- ・海外生活で学んだこと、わかったこと

講座 C

エジプト～その魅力とは～

講座担当者: ガラルル・アハマド (ふくしま多文化共生サポーター)



◆ 講座のねらい

文化と言葉の違いを理解する。

◆ 講座の内容

エジプトについての説明(地図、言語、歴史、食)

・冒頭でエジプトの地理の説明と言葉の紹介を行い、続いて歴史の話をした。特にピラミッドについては、その構造や、現在でもまだ解明されていない謎などを盛り込み20～30分時間をとって話をした。受講生もこの話題が一番関心があった様子。最後に食の話をして、日本との文化の違いを語った。

・質問コーナー

質問コーナーを設けたが、ほとんど古代エジプトに関する内容であった。

講座 D

Quiz Show America!

講座担当者: マガレット・プライス (会津若松市国際交流協会国際交流員)



◆ 講座のねらい

アメリカのことを紹介します。

◆ 講座の内容

パワーポイントのクイズを使いながら、アメリカの文化、歴史、地図など、楽しいメニューを紹介します。

講座 E

外国ルーツの子どもたち～その支援の現場から～

講座担当者:永島 恭子、横田 あゆみ (こおりやま日本語教室)



◆ 講座のねらい

外国にルーツを持つ子どもの現状を知るとともに、支援のあり方及びグローバル人材としてどのような将来が期待できるかを考える。

◆ 講座の内容

講座では、まず「フランスの小学校での英語の授業」を疑似体験したうえで、感じたことを共有した。その上で外国にルーツを持つ子どもたちには、日本語学習の支援だけでなく、居場所づくりの支援も必要であることを示した。

次に、福島県における外国にルーツを持つ子どもの現状を示し、こおりやま日本語教室の活動について具体的な指導例を交え紹介した。

最後に、外国にルーツを持つ子どもがいる地域で住民一人一人ができる支援について意見を出し合い共有した。

ユース2

協力隊体験談

講座担当者: 上野 健一、中根 倫子、小野 真理子 (ふくしま青年海外協力隊の会)



◆ 講座のねらい

ユースコースの高校生たちに青年海外協力隊時の体験を話して、世界に目を向けるきっかけや国際協力に興味を持っている子たちの背中を押す場を提供する。

◆ 講座の内容

- ・青年海外協力隊に応募するきっかけ
 - ・任国事情について
 - ・モザンビークでの活動内容
 - ・水に関わる問題
 - ・帰国してから思うこと
- を織り交ぜながらの体験談。

クロージングセッション1 (16:00~16:40)

1 1日目のふりかえり

全体講師: 堀田 直揮 ((公社)青年海外協力協会企画調整課長)

◆ 講座のねらい

- ・1日の学びをふりかえる

◆ 講座の内容

(セッションごとの振り返り) 20分

- ・グループ進行役を決定
- ・セッション1に参加しての感想「これを学んだ」を用紙に一言で表現して記入
- ・グループ内の全員で見せ合う
- ・進行役が気になる表現を指名して順に発表
- ・セッション2も同様に進行

(ひとこと) 15分

- ・自分が掲げた目標に対し、今日の収穫を一言で発表



2 あいさつ

公益財団法人福島県国際交流協会専務理事 斎藤 隆



🍁 宿泊オリエンテーション 🍁 (16:50~17:30)

施設の使い方、グロセミカフェ、ディナー交流会について説明を行った。



🍁 ディナー交流会 🍁 (18:00~18:50)

福島県国際交流協会のふくしまユースグローバルカレッジ5期生が進行役を務め、テーブルは星座ごとに分け、“星座あるある”を行った。



🍁 グロセミカフェ 🍁 (19:00~20:30)

夕食後の時間を使って、グロセミカフェと題して講師とのフリートーキングの時間を設けた。参加者は、飲み物を片手に講師のブースを自由に移動しながら、気軽に話を聞くことができた。

初日に参加した講座の講師に話を聞いたり、気になっていた講座の講師のところに積極的に足を運ぶ姿が印象的だった。



協力隊訓練模擬体験 (6:30~7:30)

9月27日(日)



自主セッション (8:30~9:20)

A 「多文化キッズキャンプ in 福島 2015」報告 日下部 喜美子 (蓬莱日本語教室)



B 押し花と折り紙にてコミュニケーションのとりかたを楽しみながら学びましょう

鈴木 九良子 (本宮日本語教室)



C シルクロードでふれあった中国文化 磯 秀玲 (つばさ~日中ハーフ支援会)



D 国際ボランティア～カナダ研修を終えて～ 角田 真央（桜の聖母短期大学1年）



E フィリピン・5年ぶりに再訪問して感じたこと！

水野 榮（福島県国際交流・20リーダー フィリピン訪問団）



F ルワンダ留学生と語り合った復興のこと

本田 啓之（NPO法人ルワンダの教育を考える会事務局長）



G あなたの知らないJRC ～日赤福島県支部高校生フィリピン派遣に学ぶ

吾妻 久ほか（福島県立須賀川高等学校JRC部顧問）



H コミュニケーションの重要性 大屋 直美 (福島県国際交流協会)



I カンボジアでの田舎 Life 河村 洋司 (伊達市地域おこし支援員)



J 中東ヨルダンの雰囲気を知ってみませんか? 上野 和恵 (三島町立三島小学校)

長壁 昌子 (郡山市立安積第三小学校)

野中 尚子 (喜多方市立熊倉小学校)



K ボランティアの視点からみた中東を取り巻く現状と子どもたち 室井 研一 (JICA二本松)



ユース3 (8:30~10:45)

水運び体験と国際協力

講座担当者: 加藤 麻子、八巻 亜梨沙ほか (ふくしま青年海外協力隊の会)



◆ 講座のねらい

水と人間のかかわりの多様性を知り、地球規模の課題を意識することで、解決に向けた国際協力の可能性を幅広い視野で考えられるようになる。

◆ 講座の内容

- ・水運び「生命と水、生活と水」
- ・水と私たち(講義Ⅰ)「生産(食料)と水」
- ・水と私たち(講義Ⅱ)「人としての尊厳ある「生」と水」
- ・マインドマップ作製、総括(振り返りと今後の展望)

セセッション3 (9:35~10:45)

講座 A

180度と360度のボリビアと福島～海外経験の伝え方～

講座担当者: 平成27年度JICA二本松教師海外研修ボリビア派遣チーム



◆ 講座のねらい

ボリビア研修で学んだことを伝えることで、国際理解教育で活用できる教材や方法を参加者のみなさんと一緒に考えることを狙いとしている。

◆ 講座の内容

導入 ボリビアの多民族国の紹介クイズなど

展開 4つのグループによる国際理解教育の提案

① 日本からの移民の方々からの学び ②ボリビアの衣装からの道徳教育

③ 世界民族楽器ボリビア編 ④ボリビアタイムの実践(毎朝の活動から)

まとめ 質疑応答、意見交換

講座 B

微笑みの向こう側～タイ山岳少数民族の貧困の連鎖～

講座担当者: 竹田 朋彦 (福島県国際理解教育研究会)



◆ 講座のねらい

北部タイの少数民族の実態を事例に、貧困から派生して起きる様々な悪影響とその悪循環を断ち切るアプローチを考える。

◆ 講座の内容

- 1 貧困とはどんな状況か考える。
- 2 貧困が続くとどうなるか考える。
- 3 貧困の輪カードを並べて、因果関係を考える。
- 4 貧困の悪循環を断ち切るために必要なことを考える。
- 5 学びの振り返りを行う。

講座 C

歌って！踊って！マオリ文化体験

講座担当者：ウィリアム・ヴォスバー（福島県国際課国際交流員）



- ◆ 講座のねらい
踊りなどの体験を通して、マオリ文化に触れてもらう

- ◆ 講座の内容
 - ・NZの概要の説明、マオリ族の紹介、クイズ
 - ・歌1：2～3回歌を練習してから、みんなで一緒に踊った。
 - ・新聞紙で踊りに使われる「ティラカウ」を作ってもらった。
 - ・歌2：ティラカウを使って、一緒に踊った。
 - ・最後にマオリ族を代表する「ハカ」を踊った。

講座 D

拝啓 十五夜の我が家へ

講座担当者: 徐 銓軼 (福島県国際課国際交流員)



- ◆ 講座のねらい
伝統祝日の紹介を通じて、中国における「変わりゆく生活」と「守るべき伝統」のジレンマについて紹介する
- ◆ 講座の内容
講座の開催日は、中国の伝統祝日「中秋節」である。
本来なら、家族団らんの日である「中秋節」は、大切な家族と過ごさずにいることがだんだん増えている。
「変わっていく生活」=発展、「守るべき伝統」=伝承、共存を許容する社会について討議する。

クロージングセッション (11:00~11:40)

全体講座: 堀田 直揮 ((公社)青年海外協力協会企画調整課長)

◆講座のねらい

セミナーを振り返り、今後の自分の行動についての意思表示を行う。

◆講座の内容

(セッションごとの振り返り) 15分

- ・グループ進行役を決定
- ・自主セッションに参加(実施)しての感想、「これを学んだ!」を用紙に一言で表現して記入
- ・グループ内の全員で見せ合あう ・進行役が気になる表現を指名して順に発表
- ・セッション3も同様に進行

(チャット) 10分

- ・自由に雑談

(学びと行動を発表) 15分

- ・セミナー参加の感想、学び、今後の自分の3点を一言ずつ用紙に記入
- ・グループ内で発表



🍁 閉会式 🍁 (11:30~11:40)

1 あいさつ

JICA二本松 業務課課長 福田 義夫



2 事務連絡